

## 第1回 苫小牧市食育推進計画協議会

日時 平成29年1月23日(月)

18時30分～20時15分

場所 市役所本庁舎9階会議室

### 次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付 12名交付 (欠席者名: 赤川委員、石垣委員、市町委員)
- 3 副市長挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 事務局紹介
- 6 苫小牧市食育推進協議会設置要綱について【資料1】

### 【事務局より説明】

事務局	<p>苫小牧市食育推進協議会設置要綱についてご説明いたします。配布の資料1をご覧ください。</p> <p>第1条、設置についてですが、食育基本法第18条第1項に基づく食育推進計画の策定および総合的かつ効果的な推進にあたり、広く市民及び関係者の意見を反映させるため、本協議会を設置しております。</p> <p>第2条、所掌事項としましては(1) 食育推進計画の策定に関する事項(2) 食育推進における施策の実施及び推進に関する事項(3) その他、前条の目的を達成するために必要な事項となっております。</p> <p>第3条、組織としましては、食育推進に関係する団体から推薦された方や公募に応じた方が委員となり、委員は15名以内の組織としております。</p> <p>第4条、委員の任期は2年となっておりますが、設置初年度である今回の任期につきましては、本日から平成31年3月31日となっております。</p> <p>第5条、委員長・副委員長は各1名おくこととなっており、委員長は協議会の司会を務め、意見を取りまとめ、副委員長は委員長を補佐することになります。</p> <p>第9条、協議会の公開についてですが、この協議会は特別な理由を除き、公開となっております。協議会の議事録を市のホームページで公開いたしますのでよろしくお願いたします。</p> <p>以上で本協議会の設置について、説明を終わります。</p>
-----	--

### 7 委員長、副委員長の選出について

事務局一任により、苫小牧駒澤大学田崎委員を委員長に選出。

委員長の指名により、苫小牧商工会議所市町委員を副委員長に選出。(本日欠席)

### 【委員長就任挨拶】

委員長	改めまして、このような席に立たせていただくということで、簡単にご挨拶させていただきます。
-----	--

	<p>私は東京生まれ横浜育ちということで、北海道に平成9年にまいりました。その時は北海道の食の環境というものが自然に優しいものと考え、そういった中で生活したいなと思って北海道にまいりましたが、そこで農業と出会いました。その中でグリーンツーリズム・地産地消・スローフードといった形で農業者さんたちと色々なお付き合いがたくさんありました。</p> <p>今回はそういったことで外からの視点になろうかと思えます。皆様からの長く苫小牧で活躍されて取り組んでこられたものをたくさん出していただいて、それをまとめる役目なろうかと思っております。よろしく願い申し上げます。</p> <p>なお、副委員長就任挨拶は次回開催時に予定します。</p>
--	---

## 8 議事

### (1) 食育推進計画の趣旨について【資料2】

#### 【事務局より説明】

事務局	<p>食育推進計画の趣旨についてご説明いたします。</p> <p>計画策定の背景としまして国民の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、朝食の欠食といった食習慣の乱れが見られ、これらに起因する生活習慣病の増加が課題となる一方で、若い女性の過度の痩身志向や、高齢者の低栄養傾向等の健康面での問題も指摘されています。</p> <p>このような中、国は、健全な食生活を実践することができる人間を育てる「食育」を推進することが求められるとして、平成17年6月に食育基本法を制定しました。さらに、食育に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、食育推進基本計画を策定しています。</p> <p>次に、計画全体の位置付けを図に示しておりますが、国の食育推進基本計画を基本として、地域の特性を生かした食育の推進を図るため、食育基本法第17条に規定される都道府県食育推進計画と第18条に規定される市町村食育推進計画がございます。</p> <p>ここで第18条の条文を抜粋したものを枠内に記載しておりますが、市町村は、市町村食育推進計画を作成するよう努めなければならないとされており、その計画作成率の目標値として、国や北海道は100%の作成を目標としております。</p> <p>なお、平成27年10月末での作成率は、北海道は39.7%であり、他県に比較すると低い割合となっております。先ほど、国の計画や北海道の計画についてご説明しましたが、参考資料として配布しておりますものがございます。参考資料1は国の第3次食育推進計画の概要、参考資料2はどさんこ食育推進プランで、北海道の食育推進計画の概要となっておりますので参考にさせていただきたいと思えます。</p> <p>市町村食育推進計画策定の効果についてですが、(1)地域の食育の取組把握や情報共有から、効率的、効果的な取組を推進することが期待できます。各機関や団体ではすでに食育の取組をすすめている場合が多いと思えますが、そういった地域の取組の現状を把握、整理し、関係機関が互いに情報共有し、連携しながら取組を進めることで、類似の取組の統合や、一つのイベントで複数の分野の効果を狙うといった効率的で効果的な取組を</p>
-----	---

	<p>推進することができると考えられます。</p> <p>(2) 地域の課題の把握と、地域の施策方向の明確化、食に関わる数値の整理・比較、そしてアンケート調査により地域の課題を把握し施策の方向を明確化します。</p> <p>(3) 課題解決のための事業立案、(1)(2)の取組により、地域の状況、課題、施策の方向性が見え、関係機関が連携すると新たな事業を組み立てる契機となるものと考えております。</p> <p>以上の背景から、本市の食育推進計画の策定に着手することとなり、事務局としましてはその手順を記載のように考えております。なお、最終的な計画案の決定・公表を、平成29年10月頃を目途として進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。</p>
--	---

### 【質疑応答】

委員	<p>計画案の作成ということですが、今後の見通しとして作成された計画案がどのように市民に啓蒙されていって関係団体などに働きかけていくのか、せっかく計画案を作っても、それが機能していかなければ何もならないので、平成29年10月頃に作成されて公表していく形でどのように広まり、啓蒙していくかの見通しを教えてください。</p>
事務局	<p>行政だけで計画を作成したものを推進していくということは難しいと考えておりまして、ここにいらっしゃる委員の皆様のご協力、また他の関連団体などにも働きかけながら各計画の内容を周知していきたいと思っております。当然、市民の皆様には計画作成前にパブリックコメントを実施していくことを考えており、市民の皆様の意見も反映させながら、また関連団体と連携を図りながらすすめていきたいと思っております。具体的にいつ、どのように動くということについては今後、これからの協議の場でご意見頂けたらと思います。</p>
委員長	<p>協議会の委員は平成31年3月末までというお話だったと思いますので、29年10月以降についてももう少しどのような動きや予定があるのか教えてください。</p>
事務局	<p>策定は10月を目途としておりますが、それらの計画に掲げた事業、目標値にむかって行う取組を委員の皆様には進行管理して頂きたいと考えております。例えば、具体的な事業の28年度・29年度の取組をご報告させていただき、評価していただく、またご意見をいただくということを毎年繰り返していきたいと思っておりますので計画を立てた後もぜひ進行を管理していただきたいと考えておりますのでお願いします。</p>

## (2) 苫小牧市食育に関するアンケート調査結果について【資料3】

### 【事務局より説明】

事務局	<p>議事3、アンケート調査について説明します。</p> <p>目的は本計画のための基礎資料を整備することとし、15歳以上の苫小牧市民を無作為抽出、調査結果は抽出2000人に対し、回収は803人、回収率は40.2%となっています。</p> <p>送付したアンケート内容ですが、次に添付しました両面の内容となっております。資料</p>
-----	--

の1ページ以降、設問とともに、結果を説明します。1ページ、問1年齢については、図表1のとおり、年齢が上がるにつれ回答率が高く、問2性別については 図表2のとおり女性の回答率が高い結果となりました。問3家族構成については、夫婦・2世代の核家族が全体の78%となっています。

問4から問6は食事背景について、下の点線かこみ内・共食、3ページ下の孤食状況を問う設問となっています。問4は問3で単身世帯の方のみと回答された方へ、食事を誰かと一緒に食べる機会について問う質問となっています。図表4「ほとんど毎日」の人は19.0%、「ほとんどない」と答える人が25.7%と一番多い「月に数回程度」と合わせると49.5%と、約半数の人が食事を誰かと一緒に食べる機会が少ない結果となりました。

問5は、単身世帯以外の方へ、朝食を家族と一緒に食べる回数について質問しており、図表5朝食を「ほとんど毎日」家族と一諸に食べる人は50.0%、逆に「ほとんどない」人は全体の21.6%でした。図表6.7の年代・男女別では、男女共に10代で「ほとんどない」が40%を超え、また、20代で「ほとんど毎日」の割合が低い傾向であり、年齢が上がるにつれ、共食の頻度は高くなる結果となっています。

問6単身世帯以外の方の、夕食を家族と一緒に食べる回数については、図表8は2ページの図表5と比較したグラフとなりますが、夕食における共食は「ほとんど毎日」が71.2%、「週に4～5回」が10.5%と週の半分以上を合わせると80%以上となっています。

また、「週に2～3回」「週に1回程度」の週に数回程度の人を合わせると13.5%、「ほとんどない」人は3.2%であり、問5の朝食の共食と比較すると、夕食の共食の割合は高い結果となっています。加えて、図表9の年代別では、10代で「ほとんどない」人が9.5%と他の年代より高い結果となっており、「ほとんど毎日」の人も10代、20代の若い世代では少ない傾向となっています。

問7, 8は生活習慣について問う設問です。問7普段の起床時間ですが、図表10から、「6時前」「6時台」を合わせて73.1%の人が6時台には起床している結果でした。「8時台」「決まっていない」と答えた人はそれぞれ4.2%、5.4%と少数であり、ほとんどの方が比較的早い時間に起床できている結果となっています。図表11年代別では、40代以降は6時前もしくは6時台に起床する人が多く、10代、20代の若い世代では、6時前後に起きている割合が50%台であり、他の年代に比べると低い傾向となっております。

問8は、普段の就寝時間ですが図表12では「21時前」「21時～22時」と比較的早い就寝時間の人は合わせて25.4%、「22時～23時」「23時～24時」の人がそれぞれ27.6%、25.4%であり、0時以降の就寝時間の人は合わせると16.0%、「決まっていない」人は5.4%でした。5ページ図表13の年代別では、10代では「0時以降」、「決まっていない」人の割合が40%を超えており、中でも「1時～2時」の割合は10代、20代で高く、また、「決まっていない」人が10代で14.0%、20代で10.3%と他の年代に比べると高くなっています。

問9.10は朝食欠食について問う設問です。問9朝食を食べるか、その頻度については、図表14朝食を「毎日食べる」人は75.3%、「時々食べない」人は10.3%であり、合わせると85.6%でした。一方、「ほとんど食べない」「食べない」人は全体の13.9%でした。6ページ、図表15、年代別の男性では、朝食を「ほとんど食べない」「食べない」を合

わせた割合は、男性では20代と30代で多く、特に20代では35.7%の人がほとんど食べない、もしくは食べない状況でした。また、図表16女性では、朝食を「ほとんど食べない」「食べない」を合わせた割合は20代、30代で多い傾向ですが、男性と比較すると毎日朝食を食べている人は高い傾向となっています。

問10は、朝食を毎日食べない理由については、問9において「時々食べない」「ほとんど食べない」「食べない」と答えた方のみ回答されており、図表17朝食を食べない理由の多い順としては、時間がない、食べないことが習慣になっている、食欲がないの順になっています。「その他」16人の理由には、勤務時間の都合と答える人が多い結果となっています。

問11.12は体型について問う設問です。問11身長と体重についてBMIを算出したものですが、図表18、肥満は女性が13.6%に対し男性が32.1%となっており、逆に痩せの割合は、女性が16.2%と男性の約3.5倍でした。図表19の年代別の男性では、30代で肥満が高くなり、約3人に1人が肥満となっており、特に50代で45.2%となっています。また、10代の痩せが25.0%と高い結果でした。図表20年代別の女性は、30代の痩せが27.7%と高く、20代以降はどの年代においても男性に比べて痩せの割合が高い結果となっています。また、60代女性で肥満が高くなる傾向となっています。

問12の自分の体型についてどう感じているかについては、図表21「太っている」「少し太っている」と答えた人は合わせて55.9%、「丁度よい」と感じている人は30.8%でした。問11のBMIに関する図表18の合計からも、「肥満」の人は20.8%、「ふつう」の人は64.9%だったことから、実際の体型よりも太っていると感じている割合が高い傾向となっています。図表23年代別の女性では、10代～30代の若い世代で、「太っている」「少し太っていると感じている人が、50%前後と多く、実際の肥満の割合より高い傾向です。特に10代の女性では「痩せ」が図表20では13.0%でしたが、「痩せている」と感じている割合が0%であったことから、若い女性でのやせ願望が考えられます。

問13から18は食習慣について問う設問で、問13食事内容（バランスや量など）に気を付けているかについては、図表24は食事内容を「気を付けている」「時々気を付けている」をあわせると79.2%となっています。男女で比較すると女性の方が食事内容に気を付けて食べている割合は高い傾向となっています。図表25年代別では、10代、20代の「気を付けている」割合はそれぞれ25%前後であり、年齢が上がるにつれ食事内容を気を付けて食べている割合は高くなる結果となっています。

問14野菜を食べる頻度については図表26夕食に野菜を食べている人は88.2%でしたが、朝食、昼食に野菜を食べている人はそれぞれ約3人に1人程度となっており、3食すべてにおいて野菜を食べる望ましい食習慣の人は全体の16.3%、また「ほとんど食べない」人は6.4%となっています。

問15の間食の有無、その頻度については、図表27間食を「決まった時間に食べる」人は全体で19.7%と少なく、「時間に関係なく食べる」人は55.7%と高い傾向となっています。また「食べない」人は男性の方が31.1%と、女性に比べて高くなっています。図表28の年代別では、特に10代の若い世代で「決まった時間に食べる」割合は9.3%と低く、年齢があがるにつれ、間食の規則性が高くなる傾向となっています。また、「食べな

い」割合についても 10 代から 60 代にかけて年齢があがるにつれて高くなる結果となっています。

問 16、「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶については、図表 29、挨拶を「いつもしている」「時々している」人は合わせて 74.0%、「あまりしていない」「していない」人は全体の 24.4%でした。男女別では、女性の方が食事の挨拶をしている割合が高く、「していない」人は男性が女性の約 2.5 倍となっています。図表 30 の年代別では、「いつもしている」「時々している」を合わせた値は、50 代以降で減少し、また、あいさつを「していない」割合は 60 代で高い結果となっています。

問 17 は、中食の利用を質問してもり、中食とは内食(家庭で料理したものを家庭で消費)と外食(家庭外で調理されたものを家庭外で消費)の中間に位置する概念とされ、出来合いの食品(お弁当、そう菜等)の利用の有無と頻度については、図表 31「月に数回程度」の頻度の人が一番多く 44.8%、「週に 2~3 回程度」「ほぼ利用しない」の割合はそれぞれ 24.8%、20.9%、「ほとんど毎日利用している」人は 8.0%でした。図表 32、年代別では、若い世代ほど利用している頻度は高い傾向となっており、図表 33、世帯別では、「ほぼ毎日利用している」人は単身世帯では 17.1%、単身世帯以外では 6.6%であり、この差は約 2.5 倍となっています。

問 18 は、外食の利用の有無と頻度については、図表 34、「月に数回程度」が 63.3%と一番多い傾向となっています。男女別では、男性の方が利用頻度は高く、女性は「ほぼ毎日」「週に 2~3 回程度」を合わせても 4.5%と低い結果となっています。図表 35、年代別では、10 代から 30 代の世代で週に 2~3 回以上の頻度が 40 代以降に比べると高く、また、図表 36、世帯別では、単身世帯においての利用が多い結果となっています。

問 19.20 は地産地消、地域で生産されたものをその地域で消費することについて問う設問です。問 19 地元の食材を食べることの意識については、図表 37、「意識している」「少し意識している」割合は合わせて 43.8%、「あまり意識していない」「意識していない」人は合わせて 54.8%でした。男女別にみると、女性の方が「意識している」「少し意識している」と共に高い傾向となっています。図表 38 の年代別にみると、10 代、20 代の若い世代で「意識している」「少し意識している」割合は合わせて 20%以下の状況であり、年齢があがるにつれて、意識している人の割合が高くなる傾向となっています。

問 20 の旬のものや季節の食材を食べることの意識については、図表 39「意識している」「少し意識している」と答えた人は、全体で 72.2%でした。男女別にみると、女性の方が「意識している」「少し意識している」共に高い傾向であり、合わせて 80%となっています。図表 40 年代別にみると、特に 10 代の若い世代で「意識している」「少し意識している」人の割合が低く、逆に「意識していない」人の割合は 27.9%であり、他の世代より多い結果となっています。

問 21 は食品ロス、まだ食べられるのにもかかわらず廃棄する食品についてであり、問 21 食品を買いすぎない、作りすぎないなど食べ残しを減らすことの意識については図表 41「意識して実施している」「意識して時々実施している」割合は、それぞれ 42.1%、34.0%となっています。男女別では、女性の方が「意識して実施している」割合が高い傾向となっています。図表 42 の年代別では、どの世代でも「意識して実施している」「意識して時々

	<p>実施している」人の割合を合わせると 60%以上となっていますが、10 代、20 代の若い世代では「意識していない」割合が他の世代よりも高い傾向となっています。</p> <p>問 22 はイベント参加に問う設問であり、市内で開催されている食に関するイベントに参加の有無について ですが図表 43 からは、83.2%の方は、参加したことがない結果となっています。問い 23.24 は食育への関心を問う設問です。</p> <p>問 23 の食育に関する認識ですが、図表 44 は「言葉も意味も知っている」「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」人の回答から、「食育」という言葉を知っている割合は 85.3%でした。男女別では、女性の認知度は高い傾向となっています。図表 45 の年代別では、「言葉も意味も知っている」人は 60 代以降で減る傾向であり、また、「言葉も意味も知らない」人は 10 代で 27.9%と他の年代よりも高い結果となっています。</p> <p>問 24 の「食育」への関心ですが図表 46 「関心がある」「どちらかといえば関心がある」人は合わせて 59.9%となっています。男女別では、男性より女性の方が関心は高い傾向となっています。図表 47 の年代別では、30 代、40 代の関心が高く、逆に、10 代の「関心がない」「どちらかといえば関心がない」が他の世代に比べて高い結果となっています。</p> <p>これらの結果からは、国と同様、若い世代における朝食の欠食が多いこと、ライフスタイルの多様化と、食・生活習慣の規則性の意識や実践への課題、若い世代の体格バランス、やせと男性 30 代以降の肥満、食の共食として、若い世代におけるコミュニケーションを図りながら楽しむ「食」について学ぶ機会が少ないこと、地産地消への意識が 40%に留まっていること、国と比較すると食品ロスへの意識は高めですが、実践者をさらに増やすこと、食育への必要性が高まる中で、国と比較すると約 30%は「食育」への関心が低いことなどがあげられ、他統計データも活用しながら、計画素案へ活用していきたいと考えております。</p>
--	---

### 【質疑応答】

委員	10 ページ問 14 野菜に関する設問ですが、量については載せていないのですか。例えば、どのくらいの量を摂っているかではなく、食べているかいないかですか。
事務局	1 日の理想野菜摂取量はありますが、グラム数の把握は各個人の感覚によって違ってくるというふうに判断をし、まずは摂れているかの認識という部分で質問の意図とさせていただきます。
委員	健康こども部なので、こどもの健全な食の育成という認識があったのですが、このアンケートをみますと市民全体の健全な食生活をもって健全な体をつくるということなのですね。アンケートですが、全国一律のアンケートですか。それとも苫小牧独自のアンケートですか。もし一律であるならば、国との比較でどのような苫小牧の傾向があるのか教えていただきたい。

事務局	アンケート自体は全国一律のものではございません。各自治体もそれぞれ独自でアンケート内容を考えおこなっているという現状になっております。私どもは今回、第1回目の食育推進計画になりますので、他の市町村がどのような質問をしているのかということをご参考になさるとともに、また国が3次として求めている共食、食品ロスという部分を追加して独自で考えた内容になっております。比較する部分に関しては、朝食の欠食、肥満の割合などに関しては国の現状、目標値を参考に比較することは可能ですが、独自で追加した部分に関しては他市町村との比較は難しい状況になります。
委員	国が定めたものに関して市町村が実行していくわけですので、残念だなと思います。国が音頭をとってやるのであれば、一通りまずは同じアンケートをとってまとめ、+αで独自のものを行うことは構わないと思いますが…なぜかということ、苫小牧のレベルが全体的な中でどのようになっているかということがわかる。一定なものを行ったほうが良いのではないかと私は思います。
委員長	次回の時に同じ設問をしているものについて全国平均と苫小牧市の比較を出してもらおうという要望はございますか。
委員	あまり要望はしないですけども、できるのであればお願いしたい。
委員	感じたことなのですが、2000人の中の4割の回答ということで、これを苫小牧市の傾向として捉えるとは思いますが、丹羽委員からあったように、年齢の幅が全体にわたっていることと、アンケートの内容が盛りだくさんということで、どこに焦点をあてていくのか、苫小牧市は何の問題が一番大きいのかということをご参考になさるとともに、有意差などもアンケートなのでおそれお出せるかと思っておりますので、数字的に分析したものが今度でると、委員からも意見を出していきやすいと思えました。
委員長	一番はどこに絞ってあるのか、絞ったところの問題点を有意差などを含めて数字的に分析していくことの要望ですね。全部というよりは、特に中心となる部分にということですか。
委員	一市民として広報などに色々のせて頂いているのを見ますが、興味のある方は読みますが、興味のない方は右から左という方が多いと思うので、何か1点のところから広がっていけるようなイメージのものが何か取組みとして1つでもできたら良いのかと思います。
委員長	みなさんが興味をもつような1点に集中して、そこからきめ細かく枝分かれしていくようなイメージということでしょうか。
委員	はい。

委員	<p>仕事の関係上、食料品のスーパーマーケットの売り場を見せて頂くと、現実には家庭内で作る食生活が大きく変化しているように感じます。あれだけ惣菜やお弁当などがたくさん並んでいるスーパーマーケットです。私は魚を売り、家庭内で調理をして食べて頂くという売り方をしていますが、スーパーマーケットやコンビニ等で簡単に買える惣菜やお弁当の利用が増えていると感じる日々です。</p> <p>そのような中で「食育」ということは大変なことだと思います。現在、女性の働き手が重要視される時代で食生活が想像以上に変化している中でどのようにして協議会をすすめていくのか、食品衛生協会で食育に関わる中で食べ残しなど含めて、北海道は特に食品ロスが多いという課題を踏まえみなさんどのように感じていらっしゃるのか。食育協議会の中でも子どもたちにどのように働きかけていくのか、アンケートをみせて頂いて食育の難しさを直面しました。</p>
委員長	<p>協議会がどのようにすすめていくのか、アンケートから出てきた課題を協議会の中でどのように盛り込み改善していくのか、ご提案、方向性についてのお考え、お感じになったことを発言して頂いたということですね。</p>
委員	<p>あまり簡単に考えてはいけない、アンケートを見ますと非常に大変な問題だなと。今の食生活がこういう状況であるということで私たちが実感をしてどうやって食育を進めていけるのかの心配を含め発言しました。</p>
委員長	<p>12 ページ問 17 出来合いの食品(お弁当、そう菜等)をと、お弁当とそう菜に限定されているのですが、中食という言葉は使われていませんので、菓子パンだけ買って食べる、おにぎりだけ買って食べるということに対して、回答した人がどちらにつけてきているのかということが読めないのではないか、数値で図れないのではないかという疑問をもったのですが、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>質問のアンケート用紙が最初のページについていますが、この設問は問 17 「出来合いの食品(お弁当、そう菜等)を利用することがありますか」と尋ねておまして、ここをどう解釈したかということは正直なところ把握できていません。個々によってはおにぎりも出来合いのものだと思う人もいれば、おにぎりはそうではないと思う人もいるかもしれません。そこで曖昧な表現でありましたので、もしかすると厳密な数字ではないかなと思う部分もあります。主観的な捉え方によってここは変わるのかなと思っております。</p>

### (3) 苫小牧市食育推進計画(素案)について【資料 4】

#### 【事務局より説明】

事務局	<p>議事 4 についてですが、まずは計画の構成についてご説明します。</p> <p>資料 4、計画素案の 2 枚目、構成についてはこの目次内容を予定しており、各構成の素案について説明します。大項目 1 「本計画各の趣旨・目的」については、議事 2 で説明しましたので省略します。大項目 2 「食育の定義」については 2 ページ、食育基本法の前文の記載の内容となっています。</p> <p>大項目 3 「本計画の位置づけ」については、同じく 2 ページ、食育基本法、国の「第 3 次食育推進基本計画」、道の「どさんこ食育推進プラン」、苫小牧市の総合計画等と</p>
-----	--

整合性を図りながら、作成を進めていきたいと考えています。

大項目4 計画期間については3ページ、平成29年度中に完成とし、平成33年度までの期間を予定しております。4ページから6ページ、大項目5「苫小牧市の食の特徴」については、(1)水産物(2)農産物、畜産物、林産物(3)産業(4)その他については、苫小牧市で各把握している情報をまとめたものとなっております。

7ページから24ページ、大項目6「苫小牧市の食をめぐる現状と課題」についてですが(1)食をめぐる社会情勢と変化(2)食生活の変化と健康への影響と二つに分け考えました。まず、素案の課題把握にあたりましては、議事3で説明しました市民アンケートをはじめ、住民基本台帳、苫小牧市人口および総合戦略、苫小牧市乳幼児健診結果、苫小牧市学校保健会調査、苫小牧市国民健康保険特定健康診査結果、国勢調査、国民健康栄養調査、食育白書2016、平成27年度小中学校やせ調査、学校保健統計調査を活用しております。

これらのデータ等により、7ページから9ページまでの(1)食育をめぐる社会情勢の変化においては、人口構造から、この先、人口減少とともにさらに少子高齢化、世帯構成においては各家族世帯と単身世帯の増加があげられます。また、これらの人口構造、世帯形態、外食産業の進展に伴い、食の外部化が増加傾向となっております。

10ページから24ページの(2)食生活の変化と健康への影響については、議事3の説明と重複する内容もありますが、10ページ～12ページの①健康の状況からは、学童期以降、肥満傾向となり、成人期における(男性では)肥満、また、その反面、一部若い世代におけるの痩せとなっている傾向があること、13ページ～14ページの②食の状況からは、若い世代において朝食の欠食が多いこと、15ページ～16ページ共食の頻度については単身世帯と核家族世帯での共食の頻度は異なってきますが、核家族世帯における朝食の共食率が低いことを示しています。17ページ、栄養のバランスについては、若い世代における栄養のバランス意識が低いこと、18ページ③生活習慣の状況では、1歳6か月健診の時点での就寝時間が遅く、また不規則となる傾向があり、その後の成人期の若い世代でも同様の傾向があることを示しています。21ページ～22ページの④「食の関心における現状」では食に対する感謝の気持ちと関連する「あいさつ」習慣の規則性や、地産地消に対する意識の低さや、さらに食品ロスの意識向上を図る必要があること、24ページ 食育の認知度の低さへの対策などがあげられます。

これらの傾向から、また、国、道の計画と連動させ、事務局で考えイメージしたものが25ページ大項目7「食育推進計画の基本的な考え方」であり、基本理念を「生涯にわたって健全な食生活を実現し、豊かな心と健やかなからだをつくります」と掲げています。次に、2ページ食育の定義の中にあります、「知育」「徳育」「体育」ですが、一つ目に「体育」である「健康な食生活」として基本目標1 食を身につけ、健康なからだをつくる。二つ目に、「徳育」である「食育を知り、心豊かな食生活」として、基本目標2、食を楽しみ、感謝の気持ちを育む。三つ目に、「地育」である「苫小牧らしい食生活」として、基本目標3 食にふれあい、苫小牧の味を伝えると目標を考えました。

	<p>27 ページ 大項目8「食育推進の施策と目標値」についてですが、各3つの基本目標ごとに重点課題を設け、基本目標1「食を身につけ、健康なからだをつくる」に対し、・健康づくりにつながる食育の推進・食生活の正しい習慣化・健康寿命の延伸につながる食育の推進、31 ページ、基本目標2「食を楽しみ、感謝の気持ちを育む」に対し、・挨拶・食へることへの感謝の気持ちを育む食育・多様な暮らしに合わせた食の楽しみ・環境に配慮した食育の推進 34 ページ、基本目標3「食にふれあい、苦小牧の味を伝える」に対し、・食文化の継承と地域に根ざした食育の推進・食を通じたまちづくり との内容を事務局内で検討してみました。</p> <p>その他、途中、省略しましたが、各目標に対する具体的施策として、市役所全庁内ですでに実施している食育に関する施策を記載しております。また、これら具体的施策ですが、37 ページ「ライフステージ別食育の取り組み状況」について、縦軸を3つの基本目標、横軸を各ライフステージと関連する法律とし、該当する市の施策の一覧として示したものとなっています。</p> <p>38 ページ 大項目9「食育の推進体制」についてですが、イメージ図は記載のとおり、まず中心となるのは市民・家族・個人とし、これを取り巻く、各関係機関の連携・協働が必要と考えております。そのためには、本計画やこの協議会による検討内容が重要となってくると考えております。以上で説明は終わりですが、全ページにわたり事務局で検討した素案の段階ですので、各委員のみなさまの立場からのご意見をいただければと思います。</p>
--	--

### 【質疑応答】

委員	<p>素案の作成ご苦労さまです。苦小牧は特産物がほっきだと思っていたのですが、中にはもやしやきのこ、また全道1位とこれは宣伝しない手はないのかと感じました。野菜不足という中で、もやしは安いですし、きのこは地方に売った方が高く、地元で消費できないのかは分かりませんが、せっかくなので市民の方に食育計画を作られたらメニューコンテストなどをして、色々な賞をつくりプレゼントに特産物を渡すなどをしてみてはどうか。</p> <p>特産物のメニューを作り、保育園での食育メニュー、学校給食などに反映させるなど、そういった形で宣伝していったらどうかと思います。私も職種が管理栄養士なので、庁内でも保健部門、子ども育成課、学校給食などで栄養士がおられると思いますけども、学校給食は栄養教諭がやられていますし、教育部門は子ども育成課、成人部門は健康支援課で今日参加されている会田さんでしょうし、栄養士同士でいろいろ連携をとりながらやっていけばいいのかなと思いました。</p> <p>特定健診の関係でみなさんポロシャツを作られていると思いますけど、「きのこ・もやし」なども入れていただいてアピールし、全道1位のきのこ・えりんぎ、まいたけ、しめじは売りになるのではないかと思います。</p>
委員	<p>28 ページから具体的施策がありますが、実際にこれは取り組んでいる事業だと思います。この他に食育ということを考えて素案になっていますので、新しい事業というのはこの中にこれから入ってくるということによろしいでしょうか。</p>

事務局	<p>ご指摘の通りでして、今は市が行っている事業だけを載せておりますが、当然これから必要と思われる事業をこれからの協議会の中でご意見としていただいて、その取組みを各担当課で共有し進めていきたいと考えております。素案も、本来であれば地域の課題を洗い出し、目標値を定めてから素案を作るといった手順なのですが、皆様方に素案というものがどういったものなのかイメージを持っていただくために今回ご提示いたしました。これは素案のイメージ、たたき台だと思ってください。どんどんたたいていただいて結構ですので、後ほど意見書の提出をお願いしますが、ぜひ皆様方の取組み、今後やった方がよい取組みを出していただきたいと思っております。よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>子どもだけではなく全体が対象ということで、37 ページのライフステージの取組みとあるように、このように行うべきだと思います。子どものときに必要なものと、高齢者になってから必要なものは全然違ってきます。ですから、年代別にやらなければいけないと、この表に示されているように市として推進していく必要があるということがわかりました。このようにしなければ本当の食育はできないと思っております。アンケート調査と兼ね合いますのですが、年代別に回答率がどのようになっているのかわかりませんが、これらを加味していけばよかったのではないかと思います。</p>
事務局	<p>当然アンケートだけで全てを語ることはできないと思っておりますので、色々なデータを重ね合わせようと思っております。国民健康栄養調査や学校給食でとった調査などのデータと重ね合わせ課題を導きたいと思っております。今日、膨大な資料でしたけれども、こちらの素案にのせておりますので、ぜひ持ち帰っていただきまして、もう一度みていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。</p>
委員	<p>13 ページ、学童期におけるデータで幼稚園、小学生、中学生、高校生のデータを今度提示する予定とありますが、先ほどのアンケートで対象が 15 歳からということで高校生のデータが重複していると思っておりますが、どう考えているかということと、このデータはアンケートによって幼稚園から高校生のデータをとるのかということをお教えいただきたい。</p>
事務局	<p>こちらのデータは、苫小牧市学校保健会の中で今年度は「むし歯と生活習慣」といったテーマで調査・研究されているものです。今とりまとめている最中で、2月中旬に研究発表されるという情報をいただいております。学校保健会は医師会、歯科医師会、薬剤師会、学校の先生方で構成される会として、毎年テーマをもって研究していただいているところになります。データは頂いておりますが、私たちが先行して、こういった素案にのせることは大変失礼かと思っております。ここの部分は省かせていただいております。高校生の部分が重複するというご指摘に関しては、我々がとった食育アンケートとどうみせていくかということは今後検討していきたいと考えております。</p>

9 その他 素案についてのご意見、質問等は配布用紙にて事務局までに提出（2月10日まで）  
次回開催は3月23日（木）予定

10 閉会